

平成30年

雲南市議会 3月定例会  
会派代表質問通告一覧表

【会派代表質問日程 平成30年3月5日】

平成30年雲南市議会3月定例会 会派代表質問通告一覧表 目次

順番	日程	会派名	質問者		質問方式	ページ
			議席番号	氏名		
1	3月5日(月) 午前9時30分～	明誠会	12	西村雄一郎	一括	1～5
2		清風雲南	17	周藤 強	一括	5
3	3月5日(月) 午後1時00分～	フォーラム志民	9	佐藤 隆司	一括	6～11

平成30年雲南市議会3月定例会 会派代表質問通告一覧表

平成30年2月28日

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
1	明 誠 会 西 村 雄 一 郎 ( 一 括 )	<p>1. 市長の平成 29 年度の成果と反省、平成 30 年度に臨む抱負について</p> <p>2. 今後の財政見通しについて</p> <p>3. みんなで築くまち（自主組織）について</p>	<p>(1) 地方創生の一層の推進を図るため「安心・安全」「活力と賑わい」「健康長寿・生涯現役」の実現をまちづくりの課題に掲げ、「定住基盤の整備」「人材の育成・確保」に積極的に取り組み、「課題解決先進地」を目指す所信を表明された。これは、ほぼ 29 年度所信表明と同様である。市長の平成 29 年度の成果と反省、平成 30 年度に臨む市政運営の抱負を問う。</p> <p>(2) 地方創生の鍵は、人口の社会増である。しかし、近隣の松江市、出雲市への人口流出が続き、社会減は克服できていない。どう分析し、どう対策を打つのか、改めて問う。</p> <p>(1) 平成 30 年度の一般会計予算規模は、299 億 1400 万円、6.5%の伸びで、財政調整基金、減債基金からの繰り入れは 5 億円に上る予算だ。中期財政計画では、平成 29 年度基金残高 109 億円が平成 34 年度 82 億円、5 年間で 25%の減少と計画されている。また、3 年平均の実質公債費率は 12%前後で推移すると見込んでいる。しかし、単年度では年々上がっており平成 34 年度は 14.7 とされている。3 年平均は遅行指標で有り平成 34 年度以降の上昇が非常に懸念される。市長は本市の財政見通しをどのように考えているのか問う。</p> <p>(1) 合併当初の地域自主組織組成に関わってきたが、そのときのスローガンの 1 つは、1 戸一票制から住民みんなが参加し、話しあい、決める一人一票制への転換であった。しかし、小規模多機能自治組織の法人化は、1 戸 1 構成員すなわち、1 戸一票制を招くのではないか。法人は、構成員が債権債務についても責任を負うことから、地域自主組織加入は任意とせざるを得ない。隣同士でも、地域自主組織に加入している、していないという現象も起こる。全住民加入の基本方針の大転換では</p>	

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		<p>4. 安心・安全で快適なまちについて</p> <p>5. 支えあい健やかに暮らせるまちについて</p>	<p>ないか。見解を伺う。</p> <p>(2) 地域自主組織の活動は多岐にわたり、錯綜する中で、役員の考え違いや逆に会員、利用者の考え違いで、地域自主組織への苦情となっている例も聞く。老人介護施設等には苦情処理機関の設置が義務づけられており、適正な介護や入所者の人権が守られている。地域自主組織への苦情についても、老人介護施設等の苦情処理機関を参考に設け、公正で適切な対応が図られるようにするべきではないか。</p> <p>(3) 行政からの依頼が多いが断りきれない地域自主組織も多い。率直に言ってやらされ感が出ている。その忙しさが壮年期の参加を拒み、世代交代ができないのではないか。</p> <p>(1) 快適なまちの要素に交通の確保がある。三江線の廃止が決まり、木次線の存続が課題となってきた。全市的な存続運動が必要と思うがどう考えているか。</p> <p>(2) 雲南市ホームページに宍道駅での山陰本線との乗り継ぎダイヤが掲載され、県外のお客様にとって便利になったと思う。しかし、ダイヤは接続が良いといえず利用しにくい。ダイヤを改善し、松江・出雲との往来をしやすくする必要があるのではないか。</p> <p>(1) 地域自主組織の地域福祉推進員を生活支援コーディネーターと位置づけ、活動日を週2日から週4日とすることが可能となる。住民との対話、見守りの時間が増えるなど地域福祉の充実が図られるものと思うが、推進員の一層の福祉への理解を深めることが不可欠と思う。研修等どう計画しているのか。また、その際現場への理解が深い、社会福祉協議会、訪問看護師、訪問介護士等の知恵を借りるべきではないか。</p> <p>(2) 自治会の福祉委員への地域福祉の研修を毎年地道に継続することが、福祉の考</p>	

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		6. ふるさとを学び 育つまちについて	<p>え方、取り組み方等が普及し、地域包括ケアの普及に役立つ。市としてもっと取り組むべきだ。</p> <p>(3)身体教育医学研究所は、運動を通じて生涯健康で生き生きと暮らせるまちづくりに大きな役割を果たしている。その活動を広く市民に知らせることが市民の健康長寿につながると思う。市としてその存在をもっと告知すべきだ。</p> <p>(1)雲南市教育魅力化推進会議第一次提言が示された。キャリア教育の充実の項目で「プログラムで育てたい力を付けることが目的で有り、盛り込んだ内容を実践していくことが目的になっていないか」との指摘があった。各種の教育イベントをこなすのが目的でなく、計画的、意図的、継続的な教育の一環のイベントのなかで学ぶということだと思うが、教育委員会の認識はどうか。</p> <p>(2)その意味で、教育委員会の企画、地元の皆さんの新規企画が開催間近に決定する例もある。学校と事前に入念に打ち合わせ実施されるべきものだと思うがいかがか。</p> <p>(3)地域自主組織が、退職教員等の協力を得て学習塾等を開催している。講師謝金等を考慮すべきとの指摘もあるが、検討しているか。</p> <p>(4)市外の高校へ進学する生徒が多い一方、市内 3 高校が定員割れとなっている。飯南町は、掛合飯南間の通学バスを無料にして市内生徒を飯南高校へ勧誘している。本市でも同様な対応ができないか。</p> <p>(5)統合学校給食センターの建設が進んでいる。地産地消の検討は進んでいるのか伺う。</p> <p>(6)永井隆博士は世界的な平和の使徒と言われる。永井隆記念館は、平和教育の拠点で、本市で育つすべての子供の心に宿る暖かいともしびと言える。市の平和のシ</p>	

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		7. 挑戦し活力を生みだすまちについて	<p>ンボルである。建物、敷地、展示施設などに十分予算を確保し、後世に残る良いものを作るべきだ。</p> <p>(1) 中心市街地活性化事業について</p> <p>① 中心市街地活性化事業は、本市の巨大プロジェクトで有り、市民の関心も高い。その中核事業となるホテル進出について、市からの説明がなく、市民には戸惑いがある。相手のある交渉ごとであるが可能な限りで説明されたい。</p> <p>② サクラマルシェは、7店募集のところ5店の進出決定と聞いている。空き店舗がある町並みでは営業は難しい。残り2店の進出の見込みはあるのか。ダム効果、賑わい創出はできるのか。</p> <p>(2) 食の幸発信事業について</p> <p>① 6次産業は、1次2次3次産業三方良しの施策で大切だ。29年度中に整備計画とのことだった。しかし、検討委員会の結論が出ていない中、中期財政計画に予算額、実施時期が示された。雲南市の思いが先行しているのではないか。本市の役割は、消費者も喜ぶ四方良しの行司をすることではないか。</p> <p>② 加工部門では狙いが定まっているようだが、肝心の農産物選定、生産態勢、そして大切な販売、出口はどの程度検討が進んでいるのか。それぞれの見通し、やる気が大切ではないか。</p> <p>(3) 「土地改良を償還し終わった時、国の農業政策が変わり小規模農業は見放されてしまった感がある。」との声がある。市として、どう考えるのか。小農を大切にと市長も言われるが、その「小農」とは、どんな小農か。集落営農等に取り組む農家なのか。個別経営の兼業農家を含むのか。</p> <p>(4) 森林政策について問う。本市の取り組みが遅く予算が少ないのではないか。県</p>	

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		8. 行政経営について	<p>では、林業従事者等の養成、大型機械の導入に取り組む。市長の考え方を改めて伺う。</p> <p>(1)働き方改革が叫ばれている。制度改正もあるが、市役所で、今できる働き方改革は、勤務時間管理である。市役所は企画部門の仕事が多く、徹底が困難と推察する。しかし、激務等から精神疾患にいたる職員がいる職場は多いとされている。</p> <p>①一人一人の実超過勤務時間を公開・明示する、超過勤務時間は自己申請によらず、必ず上司の事前発令にする、各課職場で話し合い定時退庁を目指す等具体的な方策をとり、超過勤務時間の縮減を行うべき時と思うが、市長の見解を伺う。</p>	
2	清 風 雲 南 周 藤 強 ( 一 括 )	<p>1. 市政運営について</p> <p>2. 地域自主組織について</p> <p>3. 地域包括ケアシステムの構築について</p> <p>4. 全国植樹祭について</p>	<p>(1)市長は、市民の理解を得ながら解りやすく施策を展開し、説明責任を果たさなければならない。その政治手法はどのようにしていくか。</p> <p>(2)平成30年度重要課題として取り組むものの中で最重要課題として第一位とする施策は何か。</p> <p>(1)地域自主組織において様々な課題解決に向けての地域づくりに懸命に取り組まれているが、将来に向けては、人材の確保等を中心に不安が募る。これからの地域と行政の今後のあり方・関わり方についてどのように考えているか。</p> <p>(2)国において検討がされている地域自主組織の法人化並びに税制が制定された場合、地域自主組織の取り組みはどのような展開が想定されるか。</p> <p>(1)目指すケアシステムはどのようなものか。</p> <p>(2)その構築の手法は。また、地域との関わりはどのように展開していくか。</p> <p>(1)大田市での開催が決定したがその経過は。</p> <p>(2)植樹祭に雲南市内の「緑の少年団」の参加を模索すべきでは。</p>	

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
3	フォーラム志民 佐藤隆司 (一括)	1. 第2次総合計画 と地方創生の「ま ち・ひと・しごと 創生総合戦略」に ついて	<p>(1)2つの計画で目指す「人口の社会増」の正念場の取り組みについて 2つの計画が示された平成27年の市長所信表明では、「新たな10年に向かつてのスタートの年、その新たな10年を「人口の社会増」を大きな目標に掲げ、「飛躍の10年」とする。」平成28年は、「第2次総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく飛躍の10年に向けての2年目であり、地方創生はまさしくこれからが正念場である。」平成29年は、「様々な関係団体等と連携を深めながら「チーム雲南」として、地方創生の歩みを着実に進めて参ります」と所信表明されている。</p> <p>①今回の所信表明は、これまでとは違い「地方創生」に対するメッセージは弱く、これまでの実績が高評価を受けていることのメッセージが多く示されている。しかし、依然として厳しい現状には変わりなく、危機感が感じられない表明と感じたが、計画の目的が達成されつつあるとの認識か伺う。</p> <p>②市長の言われる「課題解決先進地」を目指すとは、誰がどのように解決することなのか伺う。</p> <p>③「人口の社会増」への挑戦として取り組まれる5カ年計画の4年目となり、30年度からの2年間の取り組みは、正に、実績と成果が求められ真価が問われる正念場の年と位置付けられる。重要成果指標として示された平成31年の人口の社会増67人の達成見通しを伺う。</p> <p>④計画では、市の将来人口設計の目標年次を平成36年、目指す目標値を36,500人と定め、人口減少の歯止めを掛ける計画とされたが達成見通しを伺う。</p> <p>⑤人口減少対策を図りつつ、持続可能な行政運営には、財政の健全化とその見える化を図る必要があるが、計画にある市財政の健全化の施策目標に対する達成見通しを伺う。</p>	

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		2. 国・県事業の将来構想について	<p>(1) 斐伊川の治水と河川敷公園整備構想のその後の動向について 斐伊川と三刀屋川、請川の合流地点の狭小部の河川拡幅並びに木次大橋から潜水橋付近の河川敷への水辺空間整備などについて、平成 22 年 11 月に国交省出雲河川事務所と島根県に対して、雲南市をはじめ雲南市議会、雲南市さくらの会、雲南市商工会、木次町下熊谷地区、斐伊地域づくり協議会、斐伊川漁業協同組合の 7 者の連名で要望書を提出された。その後の動向について、平成 25 年 6 月の一般質問で「今後も国交省や島根県とは定期的に協議の場を持ちながら、粘り強く要望する」との答弁で今日に至っている。暫く時間が経過しているが、どのような協議がされたのか。また、今後の見通しについて伺う。</p> <p>(2) 中国横断自動車道尾道松江線の 4 車線化に向けての取り組みや新たな地域高規格道路として雲南吉田掛合 I C から山陰道大田 I C への道路接続を目指し、新規開設することにより国土や地域の骨格を形成し、広域の物流や交流促進につながる新設道の可能性を含めた広域的に展開される必要性について見解を伺う。</p> <p>(3) 「山陰新幹線の早期実現を求める松江大会」が先月開催された。これは、山陰地域を縦貫し近畿圏と直接に結ぶ新幹線などの超高速鉄道（山陰新幹線）の早期実現を目指す活動として、2 府 5 県の 49 の地方自治体で構成する「山陰縦貫・超高速鉄道整備推進市町村会議」が主体的に開催されたが、その構成員の市長として実現に向けた見通しを伺う。</p> <p>(4) 県道 26 号出雲三刀屋線は、起点である出雲市大津町の国道 9 号・神立橋西詰交差点より分岐して斐伊川左岸に沿って南下し、雲南市中心街の三刀屋町下熊谷を走る国道 54 号に達する総延長 15.7 km の出雲市と雲南市を結ぶ主要地方道である。主要地方道とは「県道の中でも特に重要な道路」の位置づけであり、沿線地域の産</p>	

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		3. 第2次雲南市環境基本計画について	<p>業・経済・観光・地域住民の生活安定に大きな役割を担っていることを目的に積極的な改良工事が進められる必要があり、年々増加する交通量に対応するため、安全で快適に通行できる「道路線形の改良」及び「道路幅員の拡幅」や生活広域圏中心都市（出雲市）へのアクセス向上、出雲市からの三刀屋木次ICへのアクセス向上による人と物流の活性化を図れること、雲南市から島根大学医学部付属病院や県立中央病院などの救急医療施設へのアクセス改善と整備が進められることから重要整備道路だが、現状の道路線形で給下橋から国道54号へ接合する線形は必ずしも最良ではない。将来の雲南市の発展を考えるうえで本市の将来構想を伺う。</p> <p>(1) 「低炭素」・「循環」・「自然共生」社会により持続可能な社会が目指される中で今回の基本計画には、重点プロジェクトの一つとして「原子力エネルギーに頼らない地域社会づくり」の方向性を明確にするため、平成30年度中に基本条例の制定にも触れられている。一方、いずれ意見照会される島根原発2号機の再稼働は、先の目指す社会からすると賛否が分かれる事案である。以前、市長自ら福島第1原発事故の福島県内を視察され、「原子力災害の厳しさ、対策の難しさを実感した」と言われ、正に、原発事故が瞬時に地域環境の破壊につながり、ふるさとを取り戻すことができない状況となることを自ら体感されたと思うが、今回の第2次市環境基本計画を策定されるにあたり、改めて原子力発電に対する中長期的な見解を伺う。</p> <p>(2) 基本目標の一つの「自然と共に生きる」テーマ「自然と共に暮らす」の中で、コウノトリをはじめハクチョウ類、ガン類、ツル類、トキの5つ大型水鳥類の全てが安定的に生息可能となる潜在性を持つ、国内唯一の斐伊川水系や中海・宍道湖について水域・陸域の生態系の有効な活用とグリーンインフラストラクチャーの推</p>	

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		<p>4. 雲南市農業ビジョンについて</p> <p>5. 教育施策について</p>	<p>進に触れられた。今後の広域的な展開として、「斐伊川水系生態系ネットワーク協議会」の構成員加入を足掛かりに、経済や観光圏域への更なる広域圏形成に向けて、「中海・宍道湖・大山圏域市長会」にも構成自治体として参加すべきと考えるが可能性について伺う。</p> <p>(1)市農業ビジョンでは、年々増加傾向となる遊休農地化の防止に向け、水田農業の振興、園芸作物生産の振興が具体的に示された。現実には、生産者の高齢化や後継生産者不足であり、生産量の増加は見込めない状況と懸念する。意欲的な生産者の発掘には、プラス収益(サイドビジネス)につながることや健康維持の安心農業(ストレスフリー)など農家・非農家を問わずチャレンジできる施策展開をし、従来から先駆的に取り組まれている無農薬栽培や減農薬栽培が「雲南地域の強みブランド」であることを具体的に全市的へ波及展開することができるかがカギと考えるが見解を伺う。</p> <p>(1)「雲南市立学校適正規模適正配置基本計画」は、計画を着実に実行していくため、統合する学校名や年次、施設整備など具体的な内容を盛り込んだ実施計画として平成22年度に策定された。平成22年度から31年度までの10年間の最初の5カ年を前期、あとの5カ年を後期とされたが、前期終了時(平成26年度)に計画の見直しがされてないため、この間で教育環境が大きく変わってきている中で、次期計画は将来を見据え大胆な計画策定がされなければならない。</p> <p>①現在の計画は、検討委員会により2年にも及ぶ検討期間を設け策定された。超少子化社会が益々進行する中で、平成31年度末に向け次期計画をどのような考えで進められるのか伺う。</p> <p>②今後10年間で幼稚園、学校施設が耐用年数に到達する、また、老朽化による建</p>	

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		6. 健康都市宣言の 推進について	<p>て替えの検討を要する対象校舎、室内運動場を伺う。</p> <p>(2) 島根県教育委員会では「今後の県立高校の在り方検討委員会」により提言がまとめられた「2020年代の県立高校の将来像について」のパブリックコメントを先月末締め切られ、今後は成案策定を進められる。</p> <p>①雲南圏域の高校再編についての将来展望と10年後を目途に「雲南地域統合高校」を創造し、かつ雲南圏域の中学生が少しでも圏域に留まる魅力ある新たな高校建設誘致活動に向け、ロードマップ（年次進行計画）を作成する必要がある。他圏域に先駆けた先進的な展開をすべきと考えるが見解を伺う。</p> <p>②市内3高校の融合を図る目的に、特に、部活動など部員の減少による部活動継続や活性化に向けた取り組みから「雲南地域統合高校」の在り方を探る仕掛けづくりを地元自治体として県教育委員会に検討の必要性を要請する考えについて伺う。</p> <p>③提言では、普通科高校において生徒のニーズや社会の変化に応じた教育課程の編成・実施において、一層の特色化や工夫が必要と示されている。例えば、高等学校衛生看護学科を創設し、医療人材の養成や高校の魅力化に加えて市外、県外からの生徒の確保や介護学科など地域課題に沿った目的も示し、県教育委員会への学科・コースの設置誘致活動を図られたいが見解を伺う。</p> <p>(1)「雲南市健康づくり拠点整備事業」は、加茂B&amp;G海洋センター改修工事が5月末完成し、愈々、温水プールとして7月にオープンする本年を「健康推進元年」と位置付け、改めて「オール雲南・健康宣言」のスローガンを掲げ、全市民あげて推進し健康長寿・生涯現役の推進につなげる必要があるが見解を伺う。</p> <p>(2)12月の一般質問で「東京オリンピック・パラリンピック開催まで1,000日を切り、機運が盛り上がる中、積極的にスポーツを活かした町づくりが必要」と質問を</p>	

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		<p>7. ゲリラ豪雪について</p> <p>8. 「永井隆記念館」改築元年について</p> <p>9. 新・市制雲南史誌について</p>	<p>した。冬季オリンピックが終わり、市民の皆さんのスポーツ熱の高まりを健康維持増進の意識につなげていかなければならないが、新年度はどのように積極的なスポーツ予算措置がされているのか伺う。</p> <p>(3)東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーのルート誘致についてどのように考えておられるのか。また、取り組まれるのか伺う。</p> <p>(1)先般来のゲリラ的な降雪や 1 カ月にも及ぶ積雪により、例年の除雪体制や除雪方法では対応しきれなかったと考える。</p> <p>①現時点でどのような検証がされているのか伺う。</p> <p>②12月の一般質問で「公共工事の平準化について、特に、山陰地方の冬場の降雪や降雨など天候不順対策のため工事完成時期の年度末への集中を避ける必要がある」と質問した。皮肉にも今冬期の近年にない豪雪は、建設業界には大きな打撃となった。次年度以降に向け早急な改善が必要と考えるが見解を伺う。</p> <p>(1)平成20年には永井隆博士生誕100年を記念し、現在の記念館前庭に如己堂が建立されるなど永井隆博士生誕100年の顕彰行事が行われた。平成30年度から取り組まれる永井隆記念館整備事業は、正に、新たに生まれ変わる建て替え元年と位置付け顕彰事業・行事として取り組まれる必要があるが見解を伺う。</p> <p>(1)「合併10年の歩み」の編集発行について</p> <p>①合併後、14年目を迎えるが、合併前の経緯を含め「合併10年の歩み」の編纂が必要と考えられるがこれについての見解を伺う。</p> <p>②毎月発行される広報の「市報うんなん」の編集版のCD作成についての見解を伺う。</p>	